

みんなであつくらう

ユニバーサルデザインの 建築物

—— 県民一人ひとりがユニバーサルデザインの担い手になるために ——



千葉県建築物ユニバーサルデザイン整備指針

千葉県

千葉県建築物 ユニバーサルデザイン 整備指針とは！

誰にでも使いやすい建築物の整備について、建築物本体「ハード面」で10のポイント、利用者への情報提供、施設の運営といった「ソフト面」で3つのポイントを挙げて整理しました。

また、安全、安心、快適に住み続けられる住まいの整備について、8つのポイントを挙げて整理しました。

建築物の整備や住まいづくりに、ぜひ活用して下さい。

どうして ユニバーサルデザインの 建築物が必要なの？

多数の人が利用する建築物は、高齢の人、体の不自由な人、妊婦、乳幼児を連れた人、外国人など、さまざまな人々が多様な利用のしかたをします。

また、住まいや生活に密着した建築物は、毎日利用し、生活の基盤ともいえるものです。

このように、建築物は、人が住む、働く、集うなど、生活の基本となるものであり、ユニバーサルデザインにより整備していくことが大切です。

ユニバーサルデザインの 建築物とは？

年齢、国籍、性別、個人の能力を問わず、誰もが、公平に、安全に、安心して、そして快適に利用できるように整備された建築物をいいます。

誰にでも使いやすい 建築物を整備するために！

誰にでも使いやすい建築物を整備するためには、みんなのニーズを反映させ、建築物をよりよいものにしていく取組とともに、完成後も使いやすいものに改善し続けることが大切です。

また、みんなでよりよいユニバーサルデザインを追及していくことも大切です。

ユニバーサルデザインとは

年齢、国籍、性別、個人の能力を問わず、誰もが可能な限り利用しやすいように、特別仕様のデザインをすることなしに、製品、建築物、環境をデザインすることです。

この考え方は、アメリカのノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター所長であった故ロナルド・メイス氏によって提唱されたものです。

誰にでも使いやすい建築物の整備

ハード面の★10のポイント

1.公平に利用できること

年齢、国籍、性別、個人の能力を問わず、すべての人が公平・平等に利用できるようにします。

【公共施設の出入口】➡

自動ドアは、誰にとっても負担なく、公平に利用できます。



2.わかりやすいこと

建築物の位置や内部空間をわかりやすくします。

【地域のコミュニティ施設】➡

遠くからでも建築物と玄関が見え、どこから入ればよいのか、わかりやすくなっています。



3.移動しやすいこと

負担が少なく、誰もが同じ経路で安全に移動できるようにします。

【空港内の通路】➡

水平移動の負担を軽減するために動く歩道を配置し、誰もが同じ経路で移動できます。



4.利用方法を選択できること

個人の能力、状況に応じて利用方法を選択できるようにします。

【ホテルのトイレ】➡

車いすで使いやすい広いスペース、左右に手すりのついた便器、オストメイト対応の汚物流しなどが整備され、利用方法が選択できます。



5.十分な幅・広さがあること

誰もが無理のない姿勢で、使うのに支障のない十分な幅、広さとします。

【福祉施設の廊下】➡

廊下の幅を広くとり、両側には連続した手すりを設置して、利用しやすくなっています。



6.安全・安心に利用できること

建築物が安全であり、設備などの使い方を間違えても事故につながらないようにします。

【空港内のエレベーター】➡

ガラス窓が設けられたエレベーター。かごの中を見通せて内外の様子を確認できます。



7.情報が伝わりやすいこと

わかりやすい施設案内、避難のための的確な案内板や誘導用ブロックなどの誘導設備を設置します。

【空港内のトイレ】➡

図・絵文字(ピクトグラム)と英語・中国語・ハングル語を併記し、多様な利用者に配慮した案内サイン。



8.良いデザインであること

さりげなく、受け入れやすく、美しいデザインとします。

9.使い続けられること

いつまでも利用方法の変化に対応して、使い続けられるようにします。



10.費用が妥当であること

一般的な材料などの使用により、整備にかかる費用を妥当なものにします。

【公共施設の自動水栓】↑

自動水栓は手をかざすだけで使用できます。これらの製品は既に一般的な製品として流通しています。

誰にでも使いやすい建築物の整備

ソフト面の★3のポイント

1.施設情報の提供

施設の内容がわかり、安心して利用できるように
情報提供をします。

【福祉施設の玄関】

点字による表示と音声案内がある案内板。誰にでも近づきやすい形状で、わかりやすくシンプルなデザインとなっています。



2.施設の運営上の工夫

利用しやすいように、運営上の工夫をします。

【ホテルのバリアフリーパンフレット】

ホテルの宿泊施設や貸し出し品について説明されており、FAXでそれらの予約もできます。



3.人によるサービス

利用者の多様なニーズに応じた、人による
サービスを提供します。

【空港内の案内カウンター】

この案内カウンターは、わかりやすい位置に設置されており、常時、人による施設の利用案内などが行なわれています。カウンターの高さが2種類あり、使いやすい高さを選べます。



安全、安心、快適に住み続けられる

住まいの整備★8のポイント

1. ライフスタイルや家族構成へ適合すること

住まいは、一人ひとりのライフスタイルや家族構成に合わせて、毎日の生活が安全、安心、快適に暮らせるよう配慮しておきます。

そのためには、住み手が家族みんなで、設計者や施工者などの作り手とともに、住まい方や将来の家族像をよく検討し、計画づくりをすることが大切です。

2. 安全・安心に暮らせること

暮らしの中の様々な動作に対して、「安全」であるように建築物の各部位を構成し、「安心」して暮らせるようにします。

3. 快適に暮らせること

陽当たりや通風などを良好にします。適度な明るさを確保するとともに、体温調節が難しい人などにも配慮した室内の温熱環境を確保します。

4. 移動しやすいこと

道路から玄関、室内の廊下や部屋間に段差がなく、安全に、身体に大きな負担がなく移動できるようにします。



休んだり、負担なく靴の履き替えができるように、玄関に腰掛けと手すりを設置しています。



洋室と和室との間に段差がなく、移動しやすくなっています。

5.使いやすいこと

住まいの中の様々な動作や機器の操作のために、適切なスペースの確保などにより、動作に負担が少なく楽に使えるようにします。

広めのスペースを確保したトイレ。手すりや緊急通報装置が整備されています。



6.わかりやすく、危険につながらないこと

住まいの設備機器などは、使用方法がわかりやすく、使いやすく、そして間違えにくく、たとえ間違っても危険につながらず、簡単に修正できるものを設置しま

混合水栓には、誤操作しにくいように赤色のストッパーボタンがついており、温度確認もしやすくなっています。



7.改善しやすいこと

将来の身体能力の低下や、家族構成の変化に対応し、容易に住まいの改善ができる配慮をあらかじめしておきます。

間仕切りを変更して、トイレと洗面所を一室に改造し、車いすの使用や介助に必要な広さを確保しています。



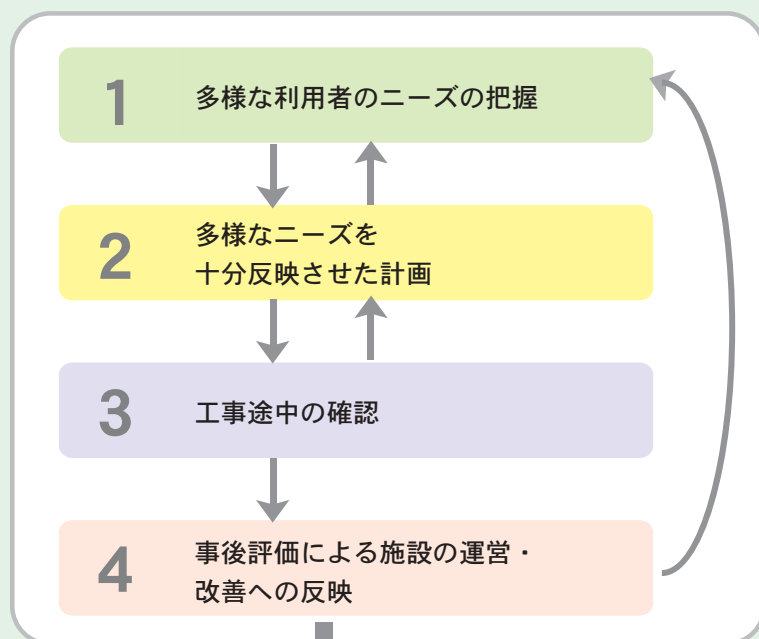
8.地域の人々と交流し、支えあうこと

豊かな生活を過ごし、安心して住み続けられるためには、地域の人々と交流したり、支えあったりすることが大切です。

居間から段差なく出られる広いテラスは、庭が接する道路からも出入でき、近所の方々との交流の場になっています。



■ 誰にでも使いやすい建築物を実現する取組手順の例



だれにも使いやすい建築物を整備するためには、「多様な利用者のニーズを把握」して、「多様なニーズを十分反映させた計画」をつくります。

また、「工事途中の確認」をし、完成してからも、利用状況の調査などを行い、「事後評価による施設の運営・改善への反映」をして、更に使いやすいものにしていきます。

このような取組を経験として蓄積して、次の建築物の整備に活用します。

みんなが連携して、よりよいデザインを追及し続けていきます。

経験の蓄積と活用

利用者、事業者、設計者等が連携して、よりよいデザインを追及し続けていきます。

建築物の整備において、これからも県民の皆様とご一緒に経験を積み重ね、よりよいものにしていくことが大切と考えています。今後ともご意見、ご提案をいただけますよう、ご協力をお願いいたします。

問い合わせ先

千葉県 県土整備部 建築指導課

電 話：043-223-3186 F A X：043-225-0913

E-mail：kenchik@mz.pref.chiba.jp

建築指導課ホームページでもご覧いただけます。

ホームページ：http://www.pref.chiba.jp/syozoku/j_kenchiku/index.html